



その3

農林水産部

沖縄の養殖業

沖縄における養殖業は、漁業生産全体が伸び悩む中、近年急速にシェアを拡大し、平成9年には漁業生産量の33%を占めるほどになりました。また、需要動向から見ても養殖業への期待は高まっています。

Q1 なぜ養殖業を推進するのですか？

沖縄の水産業は本土復帰後、カツノグ口漁を中心とした沖合漁業が地場産業としての重要な役割を果たしてきましたが、近年の国際的な漁業規制強化や資源の減少等により、「とる漁業」から「つくり育てる漁業」への変転が必要となりました。また、沖縄の漁業生産量が減少傾向を示している中で、漁業生産量を伸ばす可能性を秘めたものとして

養殖業があげられます。平成9年には養殖業の生産量が増加したことで、前年に比べ漁業生産量が割の増加となりました。沖縄の水産業を発展させるためにも、養殖業を推進することが重要となっています。

Q2 沖縄ではどのような水産物が養殖されていますか？

沖縄においても、それぞれの海域の諸条件を踏まえ養殖場の造成等が行われていて、モズク・クルマエビの養殖で大きな成果を上げています。平成9年の養殖魚種別の生産量ではクルマエビが全体の八十八%を占め、生産額ではクルマエビが全体の五十九%を占めています。

魚類ではタイ・マダロム・メネチキ（タマシ）・カンパチ・ムチ・ヤイトハタ等が養殖されています。平成8年からは成長が早く、身が日持ちするスキ（クロカシ）の養殖も開始されています。海藻類ではヒトエサ（アサ）・クヒレツタ（海ぶどう）が養殖されています。

一口メモ 水産物の効能

最近では、モズクが大腸菌O-157を撃退する力を持っていることから、健康食として注目されて需要が増えました。魚類では、脳の発達に重要な役割を果たすDHA（ド）サヘキサエン酸や血液中のコレステロールや中性脂肪を低下させるEPA（エイ）サベンタエン酸といった高度不飽和脂肪酸が多く含まれていることが特徴です。



出荷直前のクルマエビ



モズクの養殖風景



モズクの収穫作業

Q3 沖縄でなぜ養殖場を造成する必要があるのですか？

沖縄には亜熱帯の暖かい海があるため、水産物の成長が早く、養殖を行う上で他県よりも有利な立場にあります。一方サンゴ礁のリーフ外は水深はあるものの、夏は台風、冬は大陸からの季節風によって波が荒いなど、養殖に適した深くて波の静かな水域は少なく、養殖を行う場所が少ないのが現状です。そのため、養殖を行う場所の確保（養殖場の造成）が養殖業推進のために必要です。



クロカンパチ



ハマフエフキ

Q4

沖縄では養殖業推進のためにどのような施策が講じられていますか？

国の補助事業では、「沿岸漁場整備開発事業」と「沿岸漁業構造改善事業」で養殖場の造成・整備を行っています。

「沿岸漁場整備開発事業」は、国際的な漁業規制強化や資源の減少等に対し、食料の安定供給や漁業の発展を図るため、魚礁の設置や養殖場の造成等を実施する事業であり、この事業でクルマエビ養殖場・モスク養殖場・魚類養殖場を造成しています。

「沿岸漁業構造改善事業」は、漁業の生産条件である養殖場や水産業近代化施設・漁村の環境改善に必要な施設等を、総合的かつ有機的に整備することを目的としています。

Q5

これからの計画について教えてください。

この事業で養殖関連施設として養殖イカタ及び係留施設・種苗供給施設・養殖施設等を整備しています。養殖施設には海ぶどう養殖施設があります。

平成十二年度から造成予定の伊平屋地区では、県内初の試みとして浮消波堤を設置して波の静かな水域を造りだし、養殖場の造成を行う予定です。

リーフ外に養殖場を造成すれば、潮通しが良く、年中きれいな海水が流れているので、養殖場の水質悪化（最近では養殖場の底質改善材の開発や、生エサから固形化飼料への転換など、養殖場の環境改善対策も進んできています）を防ぐことができます。また、リーフ外なら広い面積を得ることができるので、この浮消波堤を利用したリーフ外での養殖場造成により、沖縄における養殖業の推進が図られることになります。



浮消波堤概要図